

「サルスベリ」はそのまま漢字を充てれば「猿滑り」です。樹皮がすべすべで、サルでも滑るように見えるからです。しかし実際には、私が子どもの頃に登った記憶があるので、サルなら楽勝で登れるでしょう。

パソコンで「さるすべり」と入力して変換すると「百日紅」と出ます。このまま読めば「ひゃくじつこう」です。実際に「ヒャクジツコウ」は「サルスベリ」の別名とされています。花が咲いている時期が非常に長く、初夏に咲き始め、遅いものは10月中旬になっても花が見られます。「百日紅」の名は、決して大げさではなく、本当に百日間咲き続ける植物です。

今の時期、サルスベリの木にはたくさんの実がなっています。緑色の果実は「蒴果」と呼ばれ、茶色く成熟すると6つに裂けて、中から翼のある種子を飛ばします。面白いのは、種子を拡散したあとも、6つに裂けた果皮がそのまま残っていることです。

附属小学校の学校園の入口に、サルスベリの樹があります。私が赴任した36年前からあるのですが、あまり成長していないような気がします。なかなか教材性の高い樹木なので、今後も大切にしてほしいと思っています。

(2023年11月上旬／附属小学校校庭)

